

# ドクター + 教える

## 女性の急な下腹部痛の 原因の一つである卵巣出血について

磐田市立総合病院 産婦人科 科長 幸村 康弘

女性の急な下腹部痛の原因となる病気としては、虫垂炎・腸炎・食中毒・生理痛など、さまざまなものが考えられます。それらの原因の中でもお腹の中に出血を伴う婦人科の病気として、頻度の高い順に「異所性（子宮外）妊娠（子宮の中以外で妊娠するもので特に卵管に多い）」と「卵巣出血」があります。今回は、卵巣出血について取り上げます。

卵巣出血とは、卵巣が何らかの原因、例えば腹部外傷、排卵、性交渉などにより出血を来すものです。

卵巣出血の発症年齢は12〜52歳までの報告があり、月経のある年齢全般にわたります。特に好発年齢はありません。症状は急な下腹部痛の他に、悪心、嘔吐、下痢などの消化器症状を認めることもあります。腹痛の程度は出血の程度によりさまざまです。排卵期や月経前後に多く、月経前後の性交渉がきっかけとなるこ

とも多いです。左右にある卵巣のうち、左よりも右の卵巣からの出血が多いです。これは直腸やS状結腸が左側の卵巣のクッションになるためと考えられています。

診断は、妊娠でないことを確認した上、問診（月経歴や腸炎などの病気の可能性はないかなどの確認）、超音波検査、CT検査などで行います。卵巣出血が最も疑われた場合の治療は、①お腹の中心で出血が続いていて危険な場合は手術で出血部位を止めます。②お腹の中心で出血が止まっていれば、鎮痛剤などを使用しつつ外来で経過観察も可能です。実際に外来で経験した症例の多くは、経過観察で軽快した場合があります。多いように思われます。卵巣出血を疑う症状が現れた場合は、早期に婦人科を受診してください。

※6月号の「ドクター教える」は内容の一部を森本昌宏著「痛いのが飛んでけ」から引用、加筆しています。

## 8月は食中毒防止月間です 正しい手洗いで食中毒ゼロに

（問）磐田市食品衛生協会  
☎ 0538-3617233

毎年8月は、食中毒防止月間です。食中毒防止の3原則、食中毒菌を「つけない」「増やさない」「やつつける」を念頭に、食中毒「ゼロ」を目指しましょう。また、家庭でも夏の買い物時に保冷バッグを利用したり、手洗いを心掛けたりすることで、食中毒菌の感染防止につながります。

食品衛生協会では、同期間に市内5支部、82人の食品衛生指導員が趣向を凝らした啓発活動を行っています。

### ◆「手洗い教室」を開催

食品衛生協会では、子どもたちに手洗いの大切さを楽しく学んでもらおうと、地域の幼稚園などを訪問し「手洗い教室」を開催しています。今後はさらに開催を増やし、手洗いの大切さを多くの方に伝えていきます。

手洗いは  
すべての人への  
おもてなし

慣れは最大の敵  
菌はどこにでもいる  
（食品衛生協会標語）



◆ノロウイルス食中毒に注意  
食中毒事故のおよそ半数がノロウイルスによるものであり、一事故当たりの患者数が多く、大規模食中毒となりやすいのが特徴です。各家庭でも予防対策をして食中毒を起こさないよう気を付けましょう。

### 【ノロウイルス予防対策】

- ・加熱する際は中心部まで
- ・加熱しない食品は十分に洗浄・消毒
- ・消毒は次亜塩素酸ナトリウムで
- ・トイレ後や調理前、食事前にはしっかりと手洗いをする

### ◆食品衛生協会の役割

食品衛生協会は、市内約1000軒の店舗が会員となり、食中毒などを未然に防止するための活動を行っています。年2回の検便容器配布から受け付け、夏季講習会の開催など、食品取扱者の衛生管理・衛生教育を行い、食品営業者の活動を支えています。皆さんに「安全・安心」な食品を提供するため、食品衛生協会の活動にご理解ご協力をお願いします。

くらしの  
情報